

激震の記録 1995 阪神淡路大震災取材映像アーカイブに 200 クリップ超の「視聴者提供映像」を 12 月 20 日追加公開

朝日放送グループホールディングス株式会社(大阪市福島区 社長執行役員 西出将之)は、震災 30 年の節目を前に、取材映像を公開している Web サイト「激震の記録 1995 阪神淡路大震災取材映像アーカイブ」に、視聴者提供映像を追加公開いたします。震災を知らない世代の若いスタッフが提供者を探し、映像が撮影された背景をヒアリングしました。リアリティをもって災害教訓を伝える「社会財」として、広く、末永く利活用されることを期待しています。

阪神淡路大震災の直後、視聴者がホームビデオで地震の被害を捉えた多くの映像が朝日放送(当時)に持ち込まれました。これらの映像は放送局が取材した映像と異なり、報道機関のカメラが立ち入ることができない、震災直後の家屋の中の映像も多く含まれることから、災害の様相をありのままに理解することができる材料になると期待されます。

しかしこれらの映像の著作権は映像提供者にあるため、震災 30 年の節目を前に改めて映像の提供者に個別連絡を行いました。42 人の提供者のうち 22 人の所在が確認でき、許諾をいただいた 21 人の提供映像を新たに公開することにしました。撮影日、撮影場所に分けて整理した映像クリップの数は、200 クリップ以上になります。公開日は 12 月 20 日の予定です。

公開に向けた作業は朝日放送テレビの映像アーカイブを管理する(株)エー・ビー・シー リブラのアーキビスト、吉水彩(26)と、放送番組制作の現場でスタッフのオフィス自由本舗、迫田ヒロミ(26)、堀田将生(25)が中心になって行いました。引っ越しや電話番号の変更等で連絡先がわからなくなった提供者を探しだし、映像が撮影された背景をヒアリングしました。震災を知らない世代が作業に携わることで、震災アーカイブをより長く維持する力になると考えています。



今回追加公開した映像は、「激震の記録 1995 阪神淡路大震災取材映像アーカイブ」(https://www.asahi.co.jp/hanshin_awaji-1995/)でご覧いただけます。

また、12月24日(予定)に発売される『スマホで見る阪神淡路大震災～災害映像が伝えるもの』(西日本出版社刊・税込 1980円)の巻頭特集として一部の映像が二次元バーコードを読み取って視聴できる他、映像提供者にヒアリングした内容を文章で紹介しています。

(<https://www.amazon.co.jp/dp/4908443955/>)

